

錯覚の時代を生きる

人間はもともと社会的動物である。「肌を寄せあう」「飢えをわかちあう」「痛みを慰めあう」といった行為は、厳しい自然の中で生きる基本的な最も基本的な知恵であったはずだ。

世界のサルは北限と言われる下北半島（青森県）のサル。北国の冬は、サルにとって苛酷な季節だ。どんぐりやトチの実、根雪の下に埋もれ掘り出すこともできない。堅

くて小さい冬芽を摘み、樹皮を剥いで飢えをしのぐのが精一杯。

激しい吹雪、ヒバの森の中で、サル群れは互いに肌を寄せあつて暖をとる。

そこには、苛酷な自然の中で生き抜く基本的な知恵が生きている。人間が自然に依存していた時代は、こうした動物の共存関係が存在していた。

だが人間が自然を征服する時代になると一変する。その進歩は、冷暖房機器を生み出し、「寒さ」「冷たさ」「暑さ」を奪い去ってしまった。

経済の成長は、金さえあれば何でも買えるという幻想を生み出し、「飢え」「ひもじさ」を無くしてしまった。

「子供が変わった」と教師や親が咳くが、環境に最も敏感な子供たちこそ変わらない方がおかしい。もちろん、大人だつて変わった。

かくして現代は、人間が動物的な感覚を喪失し、経済の無限の成長という幻想にとらわれる時代、すなわち社会的

動物であることをすつかり忘れてしまった現代は「錯覚の時代」と言えるのではなからうか。

錯覚は、人間の生き方にまで及ぶ。「人々は、まるで永久に生きられるかのように生きている」。どうやら考え直す時代が来たのでしょう。



昭和30年・自民党立党の精神

党の使命

ここに至った一半の原因は、敗戦の初期の占領政策の過誤にある。占領下強調された民主主義、自由主義は新しい日本の指導理念として尊重擁護すべきであるが、初期の占領政策方向が、主としてわが国の弱体化に置かれていたため、憲法を始め教育制度その他の諸制度の改革に当たり、不当に国家観念と愛国心を抑圧し、また国権を過度に分裂弱体化させたものが少なくない。この間隔（かんかく）が新たな国際情勢の変化と相まち、共産主義及び階級社会主義勢力の乗ずるところとなり、その急激な台頭を許すに至ったのである。

党の政綱

平和主義、民主主義及び基本的人権尊重の原則を堅持しつつ、現行憲法の自主的改正をはかり、また占領諸法制を再検討し、国情に即してこれが改廃を行う。

世界の平和と国家の独立及び国民の自由を保護するため、集団安全保障体制の下、国力と国情に相応した自衛軍備を備え、駐留外国軍隊の撤退に備える。

自民党首相の無自覚なペコペコ路線の垢（あか）と膿（うめ）が、吹き出したのです。日本の歴史に政権奪還の文化はない。

以前から気が付いている事です。地方にも外国人（東アジア系）が増えていきます。中華圏の人は日本人と見分けが困難です。発音が不自然でようやくく気がつく程度です。

水と太陽と空気

白山市でもこんな山間部にとつて進出、生活をされています。

何故かと考えていたところ、資源確保（石油や鉱物

ではありません）。水資源・水利権の確保に動いている？。真水はガソリンより高い社会です。

知らないうちに水と太陽、

の国策で、チベット・ウイグルと同じく「移住させ実効支配」でしょうか。政治家や官僚に委ねては、これまでのように外国の支配に立ち向かえません。

空気が外国に押さえられてしまふのかもしれない。日本は食料も奪われ、次は水利権が外国に奪われてしまふのでしょうか。又は中国

日本人が生きて行く根幹を売国奴に絶対に委ねてはいけません。委ねてしまえば「奴隷」を認めたと同じ事です。考えすぎです？

(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2009年11月12日（木）N076

地域から明るく未来を作ろう